

第1回流山市総合教育会議議事録

- 1 日時 平成30年1月23日（金）午前11時から正午まで
- 2 場所 庁議室
- 3 委員 井崎市長、杉浦教育委員長、浅井委員長職務代理者、宮田教育委員、堀内教育委員、後田教育長
- 4 傍聴者 なし
- 5 内容

総合政策部長

ただ今から、平成29年度第1回総合教育会議を開催します。

市長

委員の皆様におかれましては、御多用の中、総合教育会議にご出席を賜り、また、日頃から本市教育行政にご尽力いただき、厚くお礼申し上げます。

本市では、平成30年1月1日より市政51年目へと踏み出しており、人口は、平成30年1月1日現在で18万5千人を超え、前年比で約4,900人の増加となっております。これは、総務省の発表によると、全国791ある市の中でも、トップクラスの人口増加率ということでありました。

こういう状況で、特に30代・40代の子育て世代の方の転入と、そして、そのお子さんの急増によって、学校の整備など教育の質を維持するために行っていかなければならないことがたくさんあります。

そういった中で、環境の精査、質の維持・向上という2つの柱を掲げて、教育委員会には流山市の子どもに対して、「学ぶ子にこたえる流山市」の実践としてご尽力いただいているところで

す。
本日は、よろしくお願ひ申し上げます。

総合政策部長

続いて、教育委員会を代表して、杉浦教育委員長からご挨拶をいただきたいと思ひます。

杉浦委員長

教育委員長を務めさせていただいております、杉浦です。よろしくお願ひいたします。

教育委員会議において、教育行政に係る様々なお話を通じ、市長を始め、様々な方面から教育を応援していただいているということは実感しております。

本日は、改めてこういう形で、市長と直接お話できる機会を設

けていただいたことに感謝申し上げます。

少しでも、実りある会議としていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

総合政策部長

次に、各委員の皆様から順に自己紹介をお願いします。

浅井委員長職務
代理者

教育委員として、2年目を勤めさせていただいております、浅井でございます。よろしくお願ひします。小学生と中学生の子をもつ保護者の一意見をお伝えする貴重な機会とさせていただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

堀内委員

堀内と申します。よろしくお願ひします。

先日、我孫子市立根戸小学校の視察の機会をいただき、約40年にわたる児童数の増加とその中での小学校の取組みについて視察する機会をいただいたことに感謝申し上げます。

私自身も、地元の小中学校、今年度からは中学校のPTA活動へ参加をさせていただいており、約20年にわたる都市制度の改革や、社会情勢の変化などについて、学校現場を通じて聞く機会がこれまで多くありました。

実際に働く先生方の環境等、市の教育行政について、少しでもお役に立てればと思ひます。よろしくお願ひします。

宮田委員

宮田でございます。生まれも育ちも流山で、52年おります。そんなこともあって、このようなかかわりを持たせていただいております。

25年も前から、中学校の先生には、陸上競技等を通じて特にかかわりを持たせていただいております。自分の子どもが小学校、中学校へ在学している時には、PTAなどにもかかわりをもたせていただきました。

特に、陸上等を通じた生涯学習の方面からの経験を活かした意見でお役に立てればと思ひます。よろしくお願ひします。

市長

ありがとうございました。

議題1 「平成30年度の教育施策について」

市長

それでは、さっそく本日の議事に入ります。

はじめに、「平成30年度の教育施策について」を議題としま

企画政策課長

す。

事務局から説明をお願いします。

お手元に配布した資料に基づき説明させていただきます。

お配りした資料は、平成29年12月28日時点で予定されている平成30年度の教育施策にかかる主要事業を一覧にしたものです。

予定主要事業には、平成30年度に実施する事業のうち、平成30年度から新規に実施する事業や、下期実施計画及び教育振興基本計画から実施内容に変更のあった事業など主だったものを掲載しています。

本日の総合教育会議では、当資料を基に、平成30年度の教育施策について、意見交換を行っていただくものです。

なお、資料に掲載されている主要事業は現在作業中の予算編成を経て変更となる場合がありますので、ご了承ください。

それでは、資料に掲載している主要事業のうち、平成30年度新規事業についてご説明します。

NO. 3の「おおたかの森センター施設整備改修事業」では、おおたかの森センター等の駐車場不足を解消するため、つくばエクスプレスの高架下に28台分の駐車場を整備します。

NO. 4の「おおたかの森ホール開館記念事業」では、流山おおたかの森駅前に平成31年4月に開館予定のおおたかの森ホールのPRのため、開館記念コンサートの準備を進めます。なお、おおたかの森ホールの管理運営は指定管理者を選定して行います。

NO. 5の「おおたかの森ホール整備事業」では、おおたかの森ホールの使用に必要な備品の整備を行います。

NO. 15の「学校用地（新設小学校）取得事業」では、新市街地地区における児童数の増加に対応するため、平成33年度開校を目指し、大畔地区に新たな小学校を建設するための用地を取得します。

NO. 17の「新設中学校建設事業」では、新たに中学校の建設を進めてまいります。なお、新設中学校は、平成34年度以降の開校を予定しています。

NO. 21の「民設学童クラブ運営委託事業」では、小山小学校区の児童数の増加に対応するため、新たに社会福祉法人が設置する学童クラブへ運営を委託します。

以上で説明を終わります。

市長

それでは、委員の皆様から御質問等がありましたら、お願いいたします。

今の説明を補足しますと、NO. 17の「新設中学校建設事業」についての説明で平成34年度以降の開校予定とありましたが、これは、今の小学校3年生が中学校へ入学するときには、開校しているということになります。

御質問がなければ、今、平成30年度の教育施策に係る新規事業の説明をさせていただきましたが、私から予算編成の考え方についてご説明申し上げます。

平成30年度は、施設整備及び教育の質の確保を重点課題と捉え、予算編成を行っております。

施設整備では、増加している児童・生徒数に対応するため、学校の増築や新設、施設利用者の安全の確保と利便性向上のための施設整備を行います。

教育の質の確保では、英語教育に対応するためのALTの人員拡充や、学校サポート教員の増員を予定しております。

つくばエクスプレス沿線開発地域では、児童数の急増に伴い文科省の基準でいう過大規模校の問題について、どのようなマネジメントをしていくのかを教育委員会で議論していただき、運営に活かしていただきたいと考えております。また、教育委員会の中では、現状のメリットを最大限活かした教育というの、議論していただきたいと思っております。

教育の質の確保と教育環境の整備は欠かせないものと考えておりますので、教育委員の皆様と議論を重ねながら、これらの課題の対処に取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろしくご説明申し上げます。

それでは平成30年度の教育施策についてご意見や質疑等ありましたら御発言願います。

杉浦委員長

新設校についてご説明をいただきましたが、既存校への施設面での環境の整備について説明をお願いします。

施設整備室長

既存校と新設校の施設環境については、平成27年度に200㎡以上で2階建て以上の学校施設114棟の個別施設計画を策定しました。この計画に基づき、今、25棟について詳細診断を行っています。

詳細診断の結果を中心に、財政状況や各種補助制度を総合的に勘案して、次年度以降に行う長寿命化等の施策判断を行います。

総合政策部長

補足すると、施設環境の整備は、個別施設計画と詳細診断に基づいて実施していくこととなりますが、耐震化工事については、全ての施設について県内でも早い時期から取り組んでおり、既に終えていることから、建物が崩壊するということはありません。

鉄筋の状態などを考慮して、どういう工事が必要なのかということについて、詳細診断を行っているということです。

また、個別の案件として、おたかの森小学校・中学校には現在、エアコンが整備されていないので、来年度設置する予定です。

この整備により、市内の小中学校全ての学校でエアコンが整備された状態になります。

後田教育長

詳細診断の結果として、整備する計画を公開する予定がありますか。

つまり、直したら次、というような短期的な対応をしていくのではなく、中長期的な整備の計画を市民に示す予定がありますか。

施設整備室長

詳細診断の結果、優先度というものが決まってくるので、財政状況等を見て、総合計画に盛り込んでいく予定です。

総合政策部長

総合計画が上位にあり、下位に各種個別計画があります。政策・施策・事業は、計画行政という観点から総合計画での位置づけを必要としており、それがないと、財源措置というものは難しいと考えております。

市長

年度の予算等の中で、2・3年以内の近々の工事については公表していますが、その先のものは、第何期の実施計画の中で行うという形でお示しすることになります。

市民も、全体像が分からないまま、悪いところからやるというのだと不安になり、理解が得られにくいので、何年以内に取り組む、終わらせるんだというのは、お示しします。

それから、新設中学校は開校に4年間必要ということで、必要な準備を着実に進めてまいります。

浅井委員長職務
代理者

新設中学校は4年かかるということですが、これから先、来年春からは既存校で生徒の受入れは間に合いますか。

施設整備室長	<p>中学校の既存校の増築工事については現在のところ予定しておりません。</p> <p>推計では、中学校は平成34年度まで教室の不足は生じないため、新設校の整備で対応いたします。</p>
市長	<p>御質問は、おたかの森中学校の教室数は不足しないのかということかと思えます。</p>
施設整備室長	<p>おたかの森中学校は今、18教室を整備しているので、足りる見込みです。</p>
堀内委員	<p>資料の主要事業、NO.3のおたかの森センターの駐車場は、急に随分、駐車スペースが増えるという印象ですが、ご説明いただけますか。</p>
公民館長	<p>つくばエクスプレス高架下の駐車場の件ですが、現在、おたかの森センターの裏の駐車場には17台程度の駐車スペースがありますが、そこには学童クラブを整備する予定がございます。よって、増加するのは、新規に整備する28台分引く既存の17台分というのが正しい認識になります。</p>
宮田委員	<p>視察した我孫子市立根戸小学校がかつては大規模校で、昭和には2000人もの児童が在学していたことがあり、現在も1000人を超える児童が在学しているという状態の学校だが、おそらく、将来、流山市の学校も、今後も、どんどんマンションの建設が進んで大規模校になるという印象だが、これからの対策をどのように考えていますか。</p>
市長	<p>人口の抑制という趣旨の御質問でよろしいですか。</p>
宮田委員	<p>いえ、人口が増えることに反対しているわけではなく、子どもが増えて大規模校となったときの対策を今から考えていかないといけないと思っています。例えば、根戸小学校では、歩道の細い通学路において、駅に向かう通勤者と、駅方向から通学する児童とのトラブルにより、学校の電話が鳴らない日はなかったということでした。結果として、大人は反対側の歩道を歩いていただくというような対応をしたと聞いていますが、そのような話で、市街地での対策を考えているのであればお聞きできますか。</p>

学校教育部長

今、お話いただいた、子どもの通学の安全については、ハード面とソフト面というお話になるかと思います。

現在、都市軸道路をはじめとした、いくつかの地区が工事中ですが、この区画整理地内の工事が完成後、車両の流れの変化、今後の状況の変化等を踏まえて、市、教育委員会、地域の方、警察や関係機関と連携を図りながら検討をしていきたいと考えております。例えば、防犯灯やガードレール等については各関係課と連携を図りながら整備を検討していきます。防犯カメラについては、市内全域の防犯発生状況、通学路の有無等を勘案して警察と協議をしながら設置を進めていくことを考えています。

それから、ソフト面のお話では、登下校の安全指導ですが、これは学校職員、PTA、スクールガード等と人的配置を含めて協議していきたいと考えています。

市長

そのあたりは、指摘した過大規模校の運営管理についてのお話で、今日、ご指摘いただいたものを含めてかなりありますので、今後よく検討して適切な運営をしていきます。

杉浦委員長

質と環境の問題について、特に、流山の教育の質について、教職員の面が気になってしまいうで、質問させていただきます。

学校の規模が大きくなる、ならざるを得ない中で、教員の数も子どもに合わせて増えていくこととなりますが、団塊世代の教員が退職していき、若年の教員が増える、あるいは欠員補充で講師の先生が同じ学校に1年しかいられないという状態で増えていくことになるかと思います。

教職員は県が任命するということがあります。やはり教育の質を考えると、若年層の教員が増えた時に、いかに教員が流山という地で力を発揮しやすい、力を付けていくことができるような施策を実施するかが大事だと思っております。

そういう意味で、サポート教員の派遣や、特別支援の介添え、サポート看護師を入れていただくとか、校務支援ソフトの導入などによる事務の軽減、能率化を図ることが一人一人の教員にも大事だと思います。

更に、現にクラスを持っている担任の先生が、教員本来の仕事に向き合えるための予算的な措置や条件の整備について、どのようにお考えかお聞かせください。教員も、東葛地域の中で異動がありますが、流山で長く力を発揮していきたいと思うような施策の考えはありますでしょうか。教育の原点は教員の質であると思

いますので、そのあたりも合わせて考えていただきたいと思います。

学校教育課長

人が人を教えるということで、教員の質は、一番大事な部分と認識しています。ただ、今、御指摘いただいたとおり、どこの地区においても、団塊世代が退職して若い教員が多い中で、特に流山市では若い教員が増える状況にあります。

働く教員が少しでも長く流山で働きたいと思ってもらえるように業務改善を行い、子どもと向き合う時間を確保すると共に、様々な研修を通じて教員の質を高めていくよう取組んでまいります。

県の教員配置の関係上、最初から、いい人材を多く確保するという取組みも限られることから、やはり、育てて、長く流山で働きたいと思ってもらおうということに今後も取り組んでいきたいと考えています。

現在、人事異動等の準備が行われておりますが、東葛6市の中でも、流山市への異動の希望は増えてきており、これは、今までの取組みが評価されていることもあると考えています。

指導課長

若手教員の研修、資質向上という点から、指導課で行っている取組みを御説明いたします。初任者研修(1年目の教員への研修)の一貫として、年に3回、「授業力アップ研修」として、ベテラン教員の授業を見る研修を行っています。

その他に、市独自の取組みとして、平成18年度より自主研修として「教師力UP研修」を年に6回、勤務後に実施しており、今年度は96名の教員が、今日的教育課題や授業力向上に取り組んでおります。

今後も、こうした取組みを、より一層進めていかなければいけないと考えています。

浅井委員長職務
代理者

今、講師の先生がたくさんおり、そしてクラス担任を持っている。こうした講師の先生は、1年で異動しているが、研修はどうしているか、お聞かせいただけますか。

学校教育課長

臨時任用の講師は、県が主催する研修が初任者よりも少ないという状況にありますが、先ほど指導課長から説明のありました、市の主催する「教師力UP研修」には講師の先生も参加しております。

また、講師が増えているというのは、東葛地区全体の問題ですが、今、若い先生の増加に伴い、産休や育休を取得する教員も多くなるということも影響しております。

講師自体の採用も、難しいという状況もあり、県には、講師を継続して同じ学校で採用できないかと要望していますが、現状、改善されない状態であります。

後田教育長

現在、講師は翌年試験をうけて、採用されるという前提として、講師だけの研修というのを検討しています。これは、初任者は3年目までに30回しないといけないと法律で決まっていますが、講師には何回というのがないためです。子どもの前に立つのは同じですので、そこはしっかりとフォローしていきたいと考えています。

それと、やはり大規模校で必要なのは、1人の校長、教頭が2人になるか分かりませんが、それぞれの学年が、仮に全校で48学級とすると、各学年8学級の集団の経営力というのがついていかないといけないと考えています。これには、学校で30学級や20学級の運営と同じ方法で取組んだのでは、難しい面があると思っています。ですから、小集団としての1学年の経営力というのを育てていかないと、全体の積み上げにはなりません。質の向上というのを考えたときには、このスキルアップというのを目指していかないと向上できませんから、まだ、開校していませんが、講師の問題とともに、校長や教員の経営力という点も問題意識をもって調査を進めてまいります。

量の増加にあわせて中身の質の問題というのには、特に教育の問題の場合には重要と考えて取組んでいきます。

市長

1クラスの人数、あるいは学校全体の人数が増えるということで、どうしても、市として人を配置していかないと、運営が難しい面もありますので、そういった点は協議の上検討していきます。

堀内委員

学校の安全の確保について、おたかの森小学校はオープンな学校のイメージですが、不審者対策などはどうですか。防犯カメラの増設などを検討されていますか。

施設整備室長

基本的に、学校は避難所にもなっていますので、校門に鍵はついていません。

ただ、学校によっては、校門に防犯カメラを設置するなどして、防犯対策を高めている学校もあります。

学校教育部長

基本的には子ども達の生活する場所と、来校者の受付場所となる事務室等は区別されています。

開かれた学校づくりというのは、地域と共に進める一方で、「池田事件」のような外部からの不審者の侵入については、校門の管理や来訪者のチェック方法の強化を図るなど、注意しています。

例えば、名札の着用その他、来校者には顔を見て挨拶するなど、細かい部分ですが、子どもの安全作りに取り組んでおります。

堀内委員

流山は意識が高いのか、デザインが開放的になる一方で防犯意識というので気になりました。

それと、中3の先生方は入試シーズンには受験校の校門や駅まで行って応援されているという話を聞きました。あるいは、夏祭りの警備や部活動など、時間外の活動が増えているようですが、教職員の心身の負担は大丈夫でしょうか。

入試制度の変化などで、先生の負担は増えていると聞きますし、かつての仕事の質とは変わってきているイメージです。

高校入試であれば、内申点の管理や調整、県で決まったことの調整など、実際には、部活動の管理や休みなど、どうされていますか。

過労死レベルの残業などはどうですか。

学校教育部長

流山市では、平成28年度から校務支援ソフトを導入しています。システムは、サーバーで管理し、個人情報保護が図られるほか、市内全域で共通のソフトを使用していますので、教員の仕事は複雑化していますが、調査書や指導要領、通知書なども効率的かつ一体的に作業できるので、かなり事務の軽減は図られています。また、毎年、現場の先生の声聞いて改善に取り組んでいるところです。

夏祭りのパトロール等については、校長が中心となって、実情を把握した上で、どこかで振り替えて休暇を取得するようにしています。

学校教育課長

今、騒がれているとおり、教員は多忙で、超過勤務している教員もあると思います。教員は子ども達のために、これも大事だ、あれも大事だと、早朝から駅での応援や、部活についても、教員

がやりがいをもってやっていると思いますが、だからといって全てがよいことだとは考えておりません。

働き方改革には、県も、市も取り組んでいます。子どもと向き合う時間を中心にして、削るべき部分については削り、大事な部分は冷静に残すという判断をしながら、業務改善に取り組んでまいります。

指導課長

一番負担となっているものとして、部活動がありますが、市でも部活動についてのガイドラインの作成を進めています。

具体的には、平日は少なくとも1日以上、土曜日及び日曜日は少なくとも1日以上を休養日とするというものです。

今、国がガイドラインを年度末に公開するという事なので、外部指導者の記載等について注視して、市としてのガイドラインを作成していきます。

学校教育部長

平成28年4月1日から、流山市立学校職員安全衛生管理規程に則り、ストレステスト、産業医との相談、毎月80時間を超える残業を行っている教職員の把握など、学校における労働安全管理体制の整備に努めています。

対象としては、週に3日勤務等の非常勤の教職員などは対象からは外していますが、先ほどお話のあった常勤の講師は当然対象としており、働き方の正規・非正規というのは関係なく対象としています。

市長

80時間超過の職員が問題となっているので、流山市でも積極的に取り組んでいきます。

他に質疑等はありませんか。

無いようでしたら、以上をもちまして、本日の総合教育会議を終了します。

委員の皆様、ありがとうございました。

(閉会 12:00)